我が国周辺水域資源評価等推進委託事業
資源動向調査（タチウオ）

吉岡拓也・住友寿明

資源動向調査では，資源管理指針対象魚種，広域重要魚種，栽培対象魚種について，漁業と資源の現状，資源回復に関する管理施策，種苗放流による効果等の調査を実施する。徳島県はタチウオを担当し，資源動向調査を実施した。

方　法

紀伊水道，太平洋，播磨灘におけるタチウオの漁獲について，漁獲集計システムを導入している9漁協のデータをまとめた。主要漁法である延縄と小型底びき網については，9漁協のうち代表2漁協の漁獲量をまとめた。また,長期的な資源動向を把握するため，徳島県における昭和31年以降の漁獲量を「漁業・養殖業生産統計年報」から調べた。漁獲集計システムを導入している9漁協のうち，漁獲物の全量を漁協へ水揚げし，代表1漁協のCPUE（kg/日・隻）から資源動向を把握した。

結　果

タチウオの漁獲は紀伊水道，太平洋，播磨灘でみられるが，紀伊水道が主要な漁場である。平成12～28年の漁獲量を海域別で比較すると，漁獲量の81%が紀伊水道，19%が太平洋に位置する漁協で水揚げされており，播磨灘では漁獲実態がほとんど無い（図1）。紀伊水道におけるタチウオの主要な漁法は延縄と小型底びき網であり，代表2漁協で水揚げされるタチウオの46%が延縄，54%が小型底びき網で漁獲される（図2）。

徳島県におけるタチウオの漁獲量は年変動が大きく，平成5年以降は減少傾向で推移している（図3）。1～12月における延縄のCPUEは，平成21年以降20～49kg/日・隻で推移し，平成28年は前年比156%の36kg/日・隻だった（図4）。1～12月における小型底びき網のCPUEは，平成21年以降10～38kg/日・隻で推移し，平成28年は前年比78%の29kg/日・隻だった（図5）。とくに，比較的まとまって漁獲される9～12月のCPUEが前年同様高かった。

考　察

資源状態

タチウオの漁獲量とCPUEを指標として，資源水準および資源動向を推定した。平成12年以降の漁獲量において,最高値と最小値の間を3等分し水準を判断すると,資源水準は低位あると考えられる。平成28年における延縄のCPUEは昨年を上回り,漁獲量は前年比178%であった。平成28年における底びき網のCPUEは昨年を下回り,漁獲量は前年比60%であった。このことから，資源動向は横ばい程度であると考えられる。

資源管理の方法

現在，タチウオの資源水準は低位であることから，同海域で本種を利用する和歌山県と連携して管理する必要がある。管理方策の策定やタチウオの資源水準・資源動向を的確に把握するためにも,必要となる資料を積み上げることが必要である。

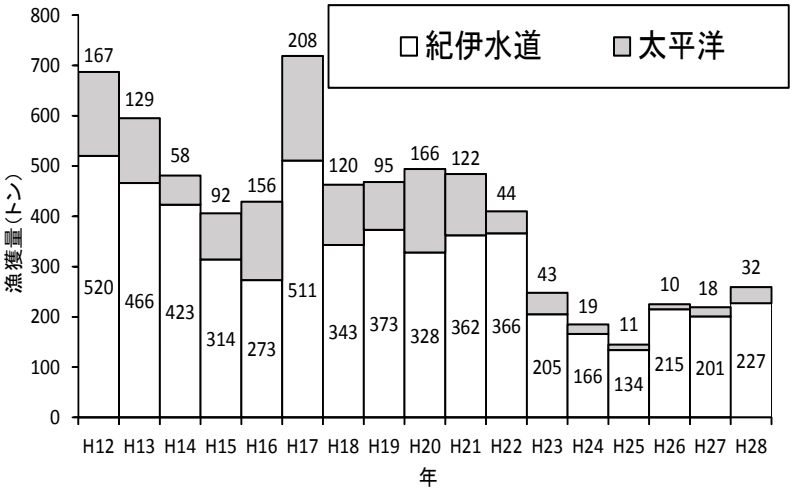

図1. 海域別漁獲量の経年変化

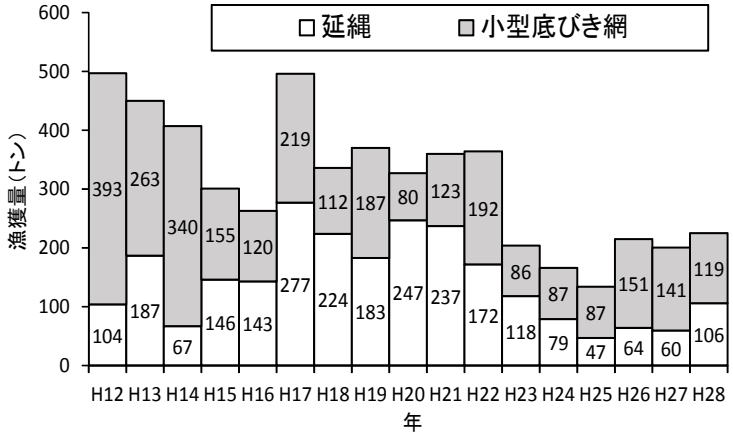

図2. 主要漁法別漁獲量の経年変化

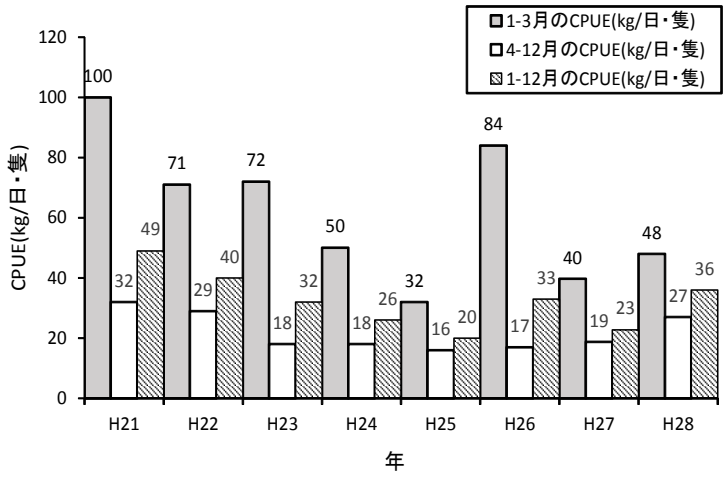

図4. 延縄によるCPUE（kg/日･隻）の経年変化

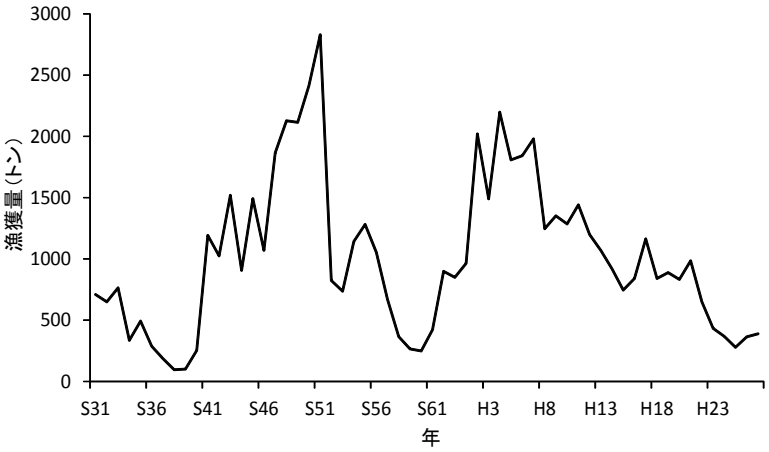

図3. 漁獲量の経年変化（漁業・養殖業統計年報）

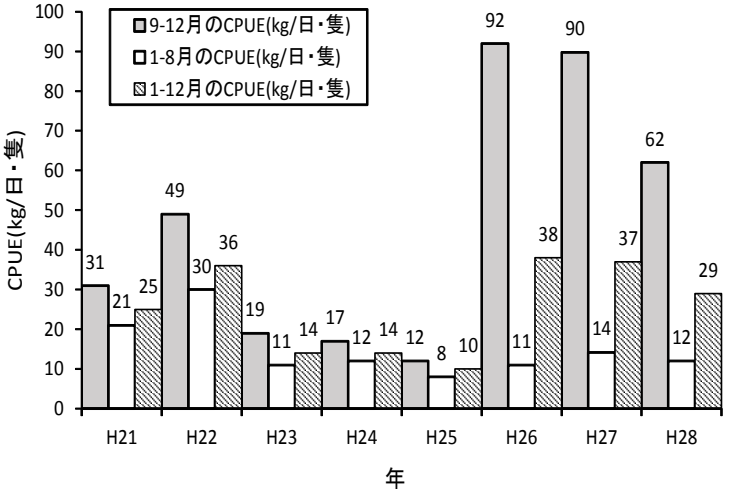

図5. 小型底びき網によるCPUE（kg/日･隻）の経年変化